◇◆

全国小学校キャリア教育研究協議会 通信 令和7年度 第5号

◇◆

◎はじめに

夏休み目前、猛暑酷暑の中、「もうひと踏ん張り!」とご尽力されているところと思います。

東京都小学校キャリア教育研究会では、今年度第 1 回の授業研究会を 6 月 20 日、町田市立小山小学校で行いました。授業の様子は、京都から参加され、本通信を編集されている林久徳初代会長が下記の通り、まとめてくださいました。紹介させていただきます。

荒川区立峡田小学校では、7 月 3 日、校内研究会として、第 2 学年音楽科 題材名「はくのまとまりをかんじとろう」において、二拍子の曲「ミッキーマウスマーチ」と三拍子の曲「メヌエット」を聞いて、その違いを感じ取り、身体表現や言葉で表現する学習を行いました。先生と子どもの対話、子ども同士の対話、子どもと曲との対話・・・峡田小学校が研究主題に掲げている「対話」そして、豊かな言語活動をめざした素晴らしい実践でした。前時の授業における授業者の逐語録、丹念な児童の実態把握、学年内事前授業など、強力な校内体制で授業研究を進めていることも特筆すべきことでした。

引き続き、試行錯誤しながら、ともに、実践を積み重ねていきましょう。

7 月 31 日及び 8 月 1 日は、第 10 回大会です。東京代々木でお会いできることを楽しみにしています。

東京都荒川区立ひぐらし小学校 校長 津田利枝

◇東京都小学校キャリア教育研究会第1回授業研究会の様子・報告

1 日時　令和7年6月20日（金）
　授業 13 時 25 分～14 時 10 分
　協議会及び指導講評 14 時 20 分～16 時 45 分
2 場所　町田市立小山小学校（校長 三瓶 昌信）
3 内容　特別支援学級 国語科
　単元名「スーホの白い馬」
　児童数 7名（4年生～6年生）
4 授業者　町田市立小山小学校　主任教諭 関根 史朗
5 講師　宇都宮大学共同教育学部 准教授 齋藤 大地 先生

東京都小学校キャリア教育研究会の令和7年度第1回研修会で町田市立小山小学校の関根先生が授業を公開してくださいました。さくら組第4から第6学年7名の子どもたちが「スーホの白い馬」を読んで、考え、感じたことを伝え合うという授業でした。

様々な実態の子どもたち、しかも学年が4年生から6年生という個性豊かな7名、中には授業とは全く違う話を始める子、大きく体を動かし、寝そべってしまう子、なかなか思いが持てず固まってしまう子もいます。そんな子どもたちがそれぞれの思いを持ち、音読したり、動作化で登場人物の気持ちを表現したり、自分

の思いをタブレットで入力したあと、 発表しあい、その一人一人の発表について感じたことを伝え合ったりしました。

　また、次の授業の見通しを持ってこの時間を終えるという子どもの自立を感じられる素晴らしい授業でした。そんな姿を導き出すために担任の関根先生が日々心掛けられていること、 日々取り組み、努力されていることがひしひしと伝わってきました。その授業の特徴的な場面をいくつか紹介します。

教室の前に数種類の資料が準備されている。

〇指導案

　１単元名・教材名　2単元の目標　3本単元における言語活動　4単元の評価規準

　5指導観・児童観・教材館　6年間指導計画における位置づけ　7単元の指導計画と評価計画

　8指導に当たって①小山小学校校内研究との関連　②本単元とキャリア教育との関連

　　　　　　　　　　③東京都キャリア教育研究会における研究内容との関連

　9本時の展開

〇子どもを見取るために7名の児童の実態が書かれた一覧表

　「国語科の学びに関する実態」　「自分の考えを伝える力の実態」「本単元・本時における行動目標」

　「目標達成のための手立て」

上記のような周到な準備物で参観者も子ども一人一人のことを理解しながら、授業を参観することができました。

教室の黒板の下に１枚のホワイトボード。１時間の流れが記載されている。

①　くちのたいそう　②　目のたいそう　かんじ　③えんぎ

④よみとり　⑤はっぴょう　きく　⑥ふりかえり

この１枚で子どもたちはやることが分かっているとともに今日の時間の見通しが分かり、取り組みやすくなっているのだろう。これは、このホワイトボードがいつもそれぞれの時間で提示され、役立っていることで、安心して授業に取り組めるのだろうと思う。 子どもの実態、集中できる時間も考え、このようなスケジュールになっているのだろう。このボードに書いてあるだけで、動けるためには、何度も何度も繰り返しておられるのだろう。

発声練習しながらうまく発声できない子にはそっと近づき、舌の動きを指導されている。

目の体操や漢字聞き取りミニテストがテンポよく行われている。

本時の目標は「学習課題に基づいて、人物のしたことや言ったことを確かめ、その時の人物の様子や理由を想像することができる。

「白馬はどうして自分を馬頭琴にしてと言ったのだろう」

いよいよ本時の中心課題が示され、この課題解決の一つの手立てとして、 関根先生が静かにゆっくり教科書を音読され、動作化、演技が行われる。ぐったりとした白馬を演じる子、その白馬を抱きしめる子、ひざまずきじっと見守る子、それぞれの思いを表現しようとしている。

動作化、演技をすることで登場人物の様子や行動の理由について イメージが持てたこともあり、多くの

子がタブレットに思いを打ち込んでいく。
児童の感想を原文のまま紹介します。
M 児　白馬は自分を馬頭琴にしてほしかった理由は、どうしてかというと、スーホと白馬はどこへ行ってもずっと一緒だと思ったからです。だから白馬は、馬頭琴にしてほしかったと思います。
Y 児　僕はスーホが悲しくないようにしたかったとおもいます。
理由はスーホが悲しんでいるのを知っていた。なぜなら114ページと12行目のときにひろってくたことを覚えていたと思います。本当はいっしょにいたかったけど、先に死んでしまったから、自分を馬頭琴にして、スーホがこれ以上悲しまないようにしたかったのだと思います。

一人一人が自分の思いを入力し、交流し、友達の発表についてそれぞれが自分なりの思いも表出している。また、今まで学習した場面を色で表現しており、この場面で感じた色と、今までの色を比較し、なぜ変化したのかについても考えていた。
まだまだ紹介したい場面がありますが、この辺りにしておきます。

〇授業者の関根先生からいただいた振り返り
小山小学校　関根史朗です。先日の研究会では、本当にありがとうございました。ご連絡が遅くなりましたが、以下、授業を実践しての感想を送信いたします。不足等ありましたら、追加・修正しますのでご指摘ください。

・さくらぐみの子ども達の実態から、キャリア教育目標を設定しました。自分の考えを伝える。伝えたことは、肯定的に受け止めてもらえる。相互にコミュニケーションをとることができる。国語科に限らず、言語活動ではそのような姿を目指したいと考えました。また、私自身は、「先生に言われたように学ぶことは楽しくない」という前提に立ち、子どもたちの力で授業を進めていけるように」と常に考えています。これら2つの要素を満たせるように、4 月からの国語科の授業を構成しました。
結果として、自主的自律的に学習を進める子どもたちの姿を引き出すことはできたと考えています。

・自己評価として「よい」と考えられる点は、「児童個別の成長が見られている点」と、「学ぶことを楽しんでいるように見える点」です。7 名の児童それぞれに、学びの実態は異なります。一斉授業のスタイルをとる以上は、7 名分の実態把握が大切で、とても難しいことです。そのため、7 名の実態表を作る際は、簡潔な表現の中にいかに「その子」を詰め込むことができるかにこだわりました。
また、今回の授業では、「分かりやすい伝え方の構文が分かってきた」という変容の見られた児童がおり、本人もそのことを実感しているだろうと予想していましたので、授業でのパフォーマンスに対して「成長しているね」とストレートに評価を伝えることができました。
他には、「次の授業では何をしようか」という教師の問いかけに対して明確に答えられるようになってきた児童の姿から、自主的自律的に学ぶことを楽しんでいるのだろうと評価しています。

・一方で、今後の課題としたいこととしては、「6 月時点でまだ変容の見られない児童へのアプローチ」と、「一人一人にあった表現を選べるようにすること」です。自分のグループにいる、言語活動が苦手な児童を思い浮かべた時、まだ伸ばしてあげられる余地がたくさんあることは分かりますが、言語活動の苦手さがどこに由来するのか、その分析がまだ甘いことを再認識しています。

語彙数、音韻、そもそも設定された言語活動への興味はどうなのかなど、分析の視点は枚挙に暇がありません（その視点の数もまだまだ未熟です）。また、振り返り活動での表現について、齋藤大地先生よりご指導があったように、ICT の活用によって子ども達の可能性をもっと引き出せることが分かり、こちらもしっかりと実践していきたいです。

◎編集後記

通信第5号は東京都小学校キャリア教育研究会第1回授業研究会の様子を報告させていただきました。関根先生素晴らしい授業ありがとうございました。本当に参観させていただいてよかったと思える授業でした。そしてお忙しいにもかかわらず、すぐに振り返りをお送りいただいて感謝しています。

今回は、東京都の授業研究会の報告でした。研究会、研修会の案内をご覧になりたい方は、第3号、第4号をご覧ください。

7 月 31 日及び 8 月 1 日は、第 10 回大会です。東京代々木でお会いできることを楽しみにしています。

皆様の地域ではどのようにキャリア教育に取り組まれているでしょうか。 各地で行われるキャリア教育の大会や研修会の案内、研究会活動の様子、個人的に取り組まれていることなど、このメールで紹介させていただきたいと思いますので、ぜひ情報をお寄せください。

このメールは本会主催の全国大会へ参加いただいた方、本会の会員が名刺交換させて いただいた方などにお送りしています。配信中止をご希望される場合は、お手数ですが、その旨をご記入の上、本メールに返信をお願いします。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

発行：全国小学校キャリア教育研究協議会

https://school-careereducation.com

会長：石田 淳（京都市立紫明小学校）

https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=101004

副会長：津田 利枝（荒川区立ひぐらし小学校）

https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/HIGURASHI-E/

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆